



# 考え抜く

永田円了

## Think It Through

考えるということは、人間にとってどのような意味をもつのだろうか。ピラミッド型上下関係の世界では、個人が考えて個性をだせば逆に出世を妨げる。表向きはクリエイティブな人材を求め、と言いながらも上司を出し抜くような逸材は敬遠される。考えないで上司の指示通りもくもくと働く部下が珍重される世界である（第一のみち）。

そんな集団社会から抜け出し、個人が個性ある考え方を思う存分発揮し、考え方の違いを明確にして行動する世界がある。今の政治の世界がまさにそうであろう。一見エネルギーに満ちた場ではあるが、各人がおのおのの考え方の違いに固守するあまり、まとまりがつかない。お山の大将が多すぎるのである（第二のみち）。

考える、よく考える、考え抜く。考える対象は自らの内面であり、他者との考え方の違いはむしろ自己発見の触媒として捉える。見たくないものにも目を向け、悩み考え抜いた果てにある風景を楽しむ。正しく悩むことは、人間であることの証と考える。ただし、悩んでいる自分を悩まない（第三のみち）。

### 一度生まれ、二度生まれ

人生は一度、しかし、人は「考え悩み抜く」ことによって生まれ変わり、二度目の人生を生きることができると、「悩む力」の著者・姜尚中氏は言う。福沢諭吉も「一身にして二生を経る」と書き記している。

ディッケンズのクリスマス・キャロルでは、クリスマスイヴに現れた同僚のマーレーと亡霊の導きによって、守銭奴スクルージは生まれ変わり、二度目の人生を生き始めた。今回のテーマ「考え抜く」では、自己の内面を自らの思考によって、徹底的に考える、考え抜く。いわば自力本願によって意識の脱皮を計ろうとするものである。



### 死について考えることが、死よりこわい

人間は生まれた瞬間から、確実に死にむかって歩み始める。生命の死は選択肢のない、避けられないことなのである。いつかは死を迎えると分かってはいるが、日常は気にしないで生きているのは何故か。それは、死以外のこと、例えば仕事、趣味、恋愛、人付き合いなどなどに夢中になっているからである。



人が夢中になること、つまり「気晴らし」という目隠しによって、人は死を気にせず暮らしていける、とフランスの哲学者パスカルは言う。なぜなら、夢中になるものがなくなったとき人は死について考えはじめ、「死について考えることが、死よりこわい」という思考に支配されるからである。

### 思考停止が一番こわい

思考することが人を恐れに導くとするならば、犬猫のように考えない方が幸せになれるのだろうか。パスカル曰く、「人間というものは、考えるために創られている。考えることこそ人間の尊厳のすべて」と記す。「死について考えることが、死よりこわい」といいながら、考えることの尊厳を説いている。何か矛盾するようであるが、思考をとことん思考することによって、マインドの支配から自らを解放するのである。それはあたかも、コトバでコトバの壁を破る禅問答に似ている。大切なのは、考え抜き、考え続けることである。思考停止状態が一番こわい。

#### <事例 DVD>

NHK 仕事学のすすめ、ヤマトホールディング 瀬戸薫 17万人の全員経営第3回  
BS1 “考える力”で強くなれ～ 高校駅伝 西脇工業の挑戦  
NHK 仕事学のすすめ、姜尚中 人生哲学的仕事論  
NHK 100分de名著、パスカル “パンセ” 第3回「生きるのがつらいのは何故」  
NHK プロフェッショナル仕事の流儀 特別編「イチロースペシャル 2012」

円了のホームページ: [www.enryo.jp](http://www.enryo.jp)

